

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900755		
法人名	有限会社 ノースランド企画		
事業所名	グループホームきれんじゃく (B棟)		
所在地	旭川市末広5条7丁目1番11号		
自己評価作成日	平成23年2月18日	評価結果市町村受理日	平成23年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigoioho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172900755&amp;SCD=320">http://system.kaigoioho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172900755&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年3月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より、運営理念の重要性を定例ミーティング・新規職員のオリエンテーション・申し送り等の際伝え職員間で共有し実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の住民・ボランティアの方が、定期的に来訪されたり、毎年、地域の小・中学生と触れ合う機会を設け、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年、小学校に招かれ認知症について話をさせていただき、認知症の方の気持ちを考えてもらえるよう努めた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の参加により、認知症についての受容・心の変化などを伝えてもらい、認知症について、また、家族の気持ちを運営推進会議を通し考えてもらえた。運営推進会議の意義は、啓蒙活動の一環として役立つ。また、当グループホームの現状・問題点なども理解してもらえた。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要があれば、その時点で、相談・助言を頂き協力を得ている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、当グループホームで作成した自己評価表に、チェックを要れ、演習を行ない、グループワークを通し、理解を深めている。生命に危険が生じない限りは、身体拘束を行わないように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングを通し、グループワークを行ない、虐待について理解を深め、防止に努めている。事故が起こり怪我に及んだときは、詳細を記載してもらい再発防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用している入居者はいないが、外部研修で学ぶ機会を持ち、活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定の際は、本人・家族が理解・納得ができるよう努めている。必要に応じ、不安や疑問点を解消できるよう対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際、生活状況を伝え、何気なく要望を聞き、当グループホームの入口に、苦情箱を設置し意見・要望を入れてもらえるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議などで、意見交換を行ない、運営について向上できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課を実施。今期、達成したこと、出来なかったことなどを個々に自己評価してもらい、代表者は、人事考課を参考にして、職員の把握に努め、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体である医療法人・関連施設と連携し職員には、研修の要望を聞き、内部研修を行っているが、外部研修は、一部の職員に限られているので、個々の能力に合わせた外部研修への参加を働きかけていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	充分とは言えないが、地域包括支援センターを通し勉強会の参加交流を図り、サービスが向上できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前から、自宅を訪問したり・当グループホームに来訪されたりと職員と顔なじみの関係を作り、不安な事・要望を傾聴し、本意が表出できる様に努めている。充分とはいえないが、安心して入所できるように支援に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事・要望を傾聴し、本意が表出できる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する前の段階から、本人が今までしてきたサービスの継続と、必要なサービスの検討を利用者・家族と話し合い対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、個人の権利・尊厳を尊重する。つまり、高齢者を人生の先輩として敬う気持ちを持ち、一緒に過ごすことで、信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、買い物・受診・外出・外泊・行事の参加等の支援を始め、ターミナルケアにおいても協力を得て関係を構築している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の交友関係・思い出のある場所を把握し、今まで同様に交流が持てるように、充分とはいえないが努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、個人の権利・尊厳を尊重し、高齢者を人生の先輩として敬う気持ちを持ち、一緒に生活することで、信頼関係を築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員は、利用者の言動から、利用者同士の関係の把握に努めている。また、職員が仲介することで利用者同士の交流が図れるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス利用が終了しても、本人・家族が安心して過ごすことができるように、これまで同様、本人・家族・関係者と情報を共有し、相談・支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・関係者より、生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等について、情報を提供してもらい把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握し、心身の状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・関係機関等から情報を収集して、計画に反映できる様に努めている。本人の言動に着目して、定期的にモニタリングを行い、思い・願いを介護計画に反映できるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	具体的なケアについては、ケアプランに添った記録の記入を行ない、記録を参考にモニタリングを実施し、ケアの統一を図れるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	嚥下機能の低下・筋力の低下等の問題が生じたときは、母体である医療機関の協力を得て、言語療法士・理学療法士などの指導のもと、サービスを利用できるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で、地域資源について情報を収集し、一人ひとりに合わせて活用ができるよう支援に努める。地域住民・ボランティア・小中学生の見学学習会などの受け入れを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医の指導のもと、連携を図り適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に、関連医療機関の看護師が訪問し、日々の状態・バイタルを確認し、必要に応じ適切な受診・看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療ができるように、情報交換・相談に努めている。また、早期退院においても関係づくりに努め協力を得ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、本人、家族の意向を伺い、事業所で出来ることを打ち出して、十分に話し合いを設け、納得した上で、医療、介護職員と連携し支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングの際、急変時の対応について、ロールプレイを通し理解を深めてもらい、実践できるように努めている。消防署の協力を得てAEDの講習を年2回受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、日頃から、緊急連絡網を回し災害対策に備えている。。運営推進会議などで、防火訓練の状況をみてもらい、地域の方にどのような協力体制を得られるか取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にもうたっているが、個人の権利・尊厳を尊重できるような対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、利用者の言動に着目し、思いや希望を理解できるように努めている。個々の能力に合わせ、自己決定できるような言葉かけを心がけ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の業務が優先しないように、個々の生活リズムに合わせて過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいとは何か考えながら、本人の意思を尊重して、身だしなみ・おしゃれができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたいものを取り入れたり、味付け、盛り付け、食器を美しいものに変えたりと食事を楽しむがもてるように支援している。役割が定着し、職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を把握し、水分量・食事量・習慣に合わせた支援となるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力に合わせて口腔ケアを行ない、口腔衛生に努めている。応じてもらえない場合は、タイミングを見て支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	心地よく過ごしてもらえよう、プライバシーに配慮し、個々の対応に努めている。立位保持が困難な利用者には、日中2人対応で自立支援に向けた排泄の支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンの把握に努め、献立・運動量を検討し、自然排便できるよう支援している。トイレ移乗時には、腹圧がかかるよう座り方を工夫したり、腹部マッサージを行ったり、自然排便できるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく、本人の希望している時間帯に入ってもらい、1対1の対応でリラックスできるよう支援している。また、温度・時間・入浴剤を使用して楽しんでいただけるよう対応に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせ、安眠できるよう部屋の明るさ・室温・寝具の掛け方等に配慮し支援している。添い寝をしたり、側で見守ったり、寝付くまで手を握ったり個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を利用者毎にファイルし、服薬の目的・容量・用法・副作用を理解し把握に努め、症状の変化を観察しながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の把握に努め、その人が望んでいる役割、嗜好品、楽しみごとを検討し気分転換を図れるように支援している。体操・音楽・昔話の読み聞かせが定着している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価					
			実施状況			実施状況			次のステップに向けて期待したい内容		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出るときは、1対1の対応となるので、職員だけの支援では充分といえない状況にある。家族の協力を得て支援している。								
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる利用者が限られているが、小額であれば所持してもらっている。								
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状では、電話をしたり、手紙を書いたりする利用者が限られているので、3ヶ月に1度きれんじやく便りと近況報告を送付している。遠方の家族には、代筆の支援をしている。								
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に、光・音に配慮して、混乱を招かないように、また、温度・湿度に留意して快適に過ごしていただけるよう支援している。季節の花や植木を置いて、生活感・季節感を感じて暮らしていただいている。車イスの利用者が多い為、目線にあわせて表札・表示・わかり易いように支援している。								
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは、気のあった利用者、職員と一緒に寄り添って穏やかに過ごしていただけるよう支援している。歌をうたう事が好きな方が沢山いて、利用者だけでも歌を口ずさむ光景が毎日見られる。また、談話したり、日課としてそれぞれの役割を担っている。自室では、横になってテレビを観たり、編み物をされたり自分の時間を過ごしている。								
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で過ごされていた頃と同様、本人の馴染みの物(写真・長いす・絵・仏壇・タンス・使い慣れた寝具・テレビ等)を本人・家族と相談の上、持ち込んでもらい、安心して暮らせるように支援している。								
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は、バリアフリーにして自立した生活が送れるように。また、自室がわかるように個々に合った設えになっている。								